



コルテス伊藤の我が音楽人生

第3回 輸入盤と深夜放送

こんにちわ。コルテス伊藤です。前回までにポピュラー音楽からロックへと自分の音楽的変遷を書いてきましたが、今回は高校時代の体験が主になります。

1968年から1975年は私にとって、今でも鮮烈な記憶が残る音楽体験でした。まず、前も書きましたが、音楽雑誌の宣伝広告に色々なお店のレコードが紹介され、輸入盤は国内盤より安く、しかも早く発売されて、好奇心旺盛な少年は毎日千葉の片田舎から東京のお店に心を馳せておりました。MUSIC LIFEの「売ります買いますコーナー」では、色々な人と手紙、現金書留、定額小為替などで売り買いをしていました。その中には、その後レコード店を開いた方たちも何人かいらっしゃって、判ったのが最近のネットによる取引でした。

私が通販以外で初めて輸入盤を購入したのは、今では業界大手のDISK UNIONの第一号店、お茶の水駿河台店にBLACK SABBATHのVOLUME4を買に行ったときでした。2,800円、当

時の私としては清水の舞台並みの根性でしたね、今思うと。英国オリジナル盤、今でも英国オリジナルという響きは魅力的で、家内に内緒でネット通販などで買ってしまっていますが(笑)。ジャケットは綺麗なコーティング、音は国内盤を遙かに凌駕していましたね。

ではアメリカ盤はどうかというと、結構雑なジャケットで、シュリンク包装といって完璧にシールドしてありましたが、それゆえ中身違いなどはざらで、その時は泣く泣く諦めるなんてこともありました。CACTUSのジャケットにBETTE MIDLERのレコードが入っていたのは思い出しますね。

ところで、輸入盤のジャケットの中の匂いを嗅いだことありますか？ チョット、変態かなと思われがちなんですけど、たまらないものありますよ。特にアメリカ盤、やってみてください。ほんと、たまりませんから(笑)。

当時はネットなどないわけで、情報はひたすら音楽雑誌でした。そこに、強烈なFM放送によるロッ

クのレコード紹介。FM TOKYO、NHK FMの放送媒体は凄いものがありました。平気でアルバム一枚紹介してくるわけですから、LED ZEPPELIN、CHICAGO、EL&P、FREE、PINK FLOYD、DEEP PURPLE、CREAM、ETC。何だい、みんなROCKじゃないか、なんて言わないでください。私のルーツは加山雄三、沢田研二ですからね、かなりの進歩ですよ。

JAZZをかじり始める頃の話は、もう少しお待ちください。とにかくラジカセでエアチェックはしていました。そして、どうせ残すなら、どうせ聞かぬら、から最大の病気が始まっていくわけですからね。これも少々お待ちください。

話を戻しますが、AMの民放はこれまた“ながら勉強族”には最大のお友達でして、音楽的にはそんなにマニアックな曲はかかりませんが、天地真理、カーペンターズとかそれはそれで楽しかったです。TBSのパックインミュージック、文化放送のセイヤング、ニッポン放送のオールナイトニッポンな

ど、曜日によって聞き分けておりました。しかし、普通の放送に飽き足らずFENの放送を聞き続けましたね、NEWS以外は何でもかかってましたから。ROD STEWART、FOCUS、ROBIN TROWERなどは何回もかかるわけで最高でした！ マニアックといえば、当時のラジオ関東も良い音楽番組だらけでした。BEAT GOES ONなんてホ

ントに最高でした。提供はJUNですからね。

しかし、必ず聞いていたのは実はJET STREAMなんですね。そのあとに続くコアな番組前の一服タイムでした。音源は今でも残っています。カセットテープ、オープンリールテープ、前回も述べましたがカセットテープはブーム再燃している模様。正直、時代は巡るのでしょうか？

そして、今回はオーディオと海賊盤とそしてROCK LIVE CONCERT、いよいよ音楽バカの桃源郷へのめり込んでいきます。それでは、ありがとうございました。

(ひたちなか市・伊藤歯科医院
伊藤 輝彦)

